★原発政策に関する、次のようなご意見が寄せられました。

浅海　忠氏	「代替エネルギー（太陽光・風力・水力・バイオマス）の普及状況や経済性も考慮していかなければならない」
江田治雄氏	「地球温暖化等の問題もあります。石炭・液化ガス等の限りある資源の問題をどうクリアするか？」
金田安生氏	「国会を福島県に移動し開いたらどうか。実際の現場に近い場所で国会議員の意識がどのように変わるのか」
山中　進氏	「脱原発を唱える者として一言。自然エネルギーに転換を図る取り組みをこの秩父から始める。４つのダムと豊富な森林資源を生かし、自然エネルギーを生み出すことを考えるべきと考える。ダムや発電所の電力と、森林から切り出した材木を加工生産し、廃材は燃焼した熱で電気を起こし、一貫した取り組みを行うこと。雇用も生まれる」
木村隆彦氏	「自然エネルギーの活用を増し、原発への依存を減らす。ＣＯ2 削減も考慮する」
黛　宮男氏	「国策として遂行している原発政策そのものが、企業本位の金儲けのためだというカラクリを明らかにしたい」
出浦章恵氏	「ただちに『原発ゼロ』の政策決断を行い、原発の 40 倍にのぼる巨大な潜在力を持つ再生可能エネルギー導入への大転換を図ること」
小池　治氏	「実務的にはａとｂの中間だと考えています。南海トラフのようなさしせまった該当地は直ちに廃止」
髙野　宏氏	「原発には反対の考えですが、(意見書賛同については) 経済動向や意見書の内容を精査して決めさせて頂きます」
五野上茂次氏	「今後の経済動向を見てから」
金崎昌之氏	「脱原発の活動に敬意を表します。あらゆる勢力を結集して、脱原発のうねりを作り上げていきましょう」
赤岩秀文氏	「私は現在の経済、および産業の状況を見て、代用エネルギーをしっかり確保できる策を講じてから、原発を止めるべきと考えます」
荒船　功氏	「太陽光発電、風量発電、水力発電が増加してくればおのずと原発依存は減少してくると思う」
笠原宏平氏	「代替エネルギー、電気料金等の問題を安定させて頂きたい」
清野和彦氏	「原発は燃料であるウランの採掘から、使用済み燃料の処理に至るまで、いのちを危険に晒し続けます。原発がなくても電気は足りています。未来世代への負の遺産を少しでも減らすため、原発は直ぐにやめるべきです。節電と再生可能エネルギーによる、秩父地域でのエネルギー自給のビジョンづくりと実践に取り掛かります」

この度は原発政策に絞ったアンケートでしたが、今後もさまざまな疑問や問題を一人一人の市民が身近な議員に問いかけ、ともに考えることが大切ではないでしょうか。
現在日本のすべての原発が止まって７ヶ月になりますが、電気が不足することもなく、景気も上向きつつあるといわれています。このまま原発のない未来を子どもたちに手渡していけたら、どれほど素晴らしいことでしょう。
三年をすぎた福島原発事故が、未だ収束から程遠い現状を忘れてはならないと思います。

原発とめよう
秩父人

「原発とめよう秩父人」へのお誘い
【入会方法】いずれかの方法で情報を共有でき活動ができます。会費はありません。
①例会にご参加ください。②ネットのFACEBOOKで「原発とめよう秩父人」へご参加ください。③携帯でのメールでの情報交換が可能なメーリングリストにご参加ください。http://www.freeml.com/chichibujin/
◆例会は「ラパンノワールくろうさぎ」秩父市野坂町1-18-12　電話0494-25-7373
◆ダニーネフセタイ（皆野）62-3782　◆田島ショウセン(小鹿野)75-3918 tajima@titibu.sakura.ne.jp

原発とめよう秩父人
代表　山田ナオミ
秩父市野坂町1-18-12
連絡先　0494-25-7373